



# 消防大学校だより



## 救助科における教育訓練 ～自然災害における対応力の向上について～

消防大学校では、救助業務に関する高度の知識及び能力を専門的に修得させるとともに、教育指導者としての資質を向上させることを目的として専科教育「救助科」の教育訓練を実施しています。令和3年度は第82期（4月13日から6月4日まで）60名の学生が、240時間の教育訓練を終え無事卒業しました。

今回は救助科において実施した教育内容について紹介します。

救助科の講義では、人事管理、体育理論、惨事ストレス対策等のほか、これからの人材育成の担い手としての教育技法、対人技法等を習熟し、さらに今年度から導入したペップトークにより“伝える力”に着目した講義を取り入れました。

また、総務省消防庁による救助行政や緊急消防援助隊の運用、国の動向と今後の展望等に関する知識も併せて習得しました。

実科訓練では、学生自らが企画・立案・調整・運営まで一連の流れを実践する「指導演習」及び「学生企画訓練」を実施、「指導演習」では、指導的立場として、指導を行う対象者と訓練想定課題を班毎に決定し、訓練資料の作成から当日の実技訓練指導に至るまでの全てを計画・調整し、実際に訓練指導を行い指導者としての姿勢や指導要領の計画及び訓練指導までを実施し、指導的立場として必要事項の習得に努めました。

「学生企画訓練」では、約1ヶ月の準備期間の中で2日間に及ぶ各種訓練を学生主体で計画し、教育支援隊（近県の高度救助隊及び特別高度救助隊）や支援教官（前期学生）を招いた訓練を通し、企画・調整及び当日の運営全般に至るまでの評価をいただき、訓練指揮者としての企画運営力の向上に努めました。

実動訓練においては「現場指揮」と「安全管理」訓練を大きな2本柱とし、座学において基礎的な事柄から災害事例など実践的な部分まで学んだうえで、現場指揮者として指揮・判断力や安全管理について実践的に習得してもらいました。

また、火災救助、山岳救助、震災救助等の一般的な救助事象から地域性のある救助事象に対する訓練をはじめ、各地域で発生している多数傷病者対応、大規模イベントにおいて発生危険が想定されるNBCテロ災害等の大規模災害対応など、多岐に渡る内容で訓練を実施しました。

その他、近年、全国的に頻発している土砂災害救助や急流救助等の自然災害における消防活動について注目の目が向けられています。

その中で、今回、急流救助の専門家等による災害の全体像に関する講義、また、災害対応要領を通じて危機管理能力を高め、二次災害防止活動に努めていく必要性を学びました。

また、土砂災害救助では、教育支援隊から災害時の活動要領及び基本手技方法を学び、学生が一日かけて要救助者の救出活動を行いました。さらに、今後は昨年度に導入した重機を活用した訓練へと発展させていきたいと考えています。

研修を終えた学生からは、「幹部としての考え方や行動、指揮命令・指導技法など今後に向けた内容で構成されたカリキュラムを学ぶことが出来て大変有意義であった。」、「今回の研修で再確認できた部分と新たな発見があり、何よりも全国の隊員と繋がりができた。」、「自分自身経験したことの無い高度な訓練、専門的な講義と全てが勉強になり充実した日々であった。」、「救助に関する知識・技術に加え、指揮者・指導者としての技量も学ぶことができた。そして、全国に



山岳救助訓練



土砂災害救助訓練



急流救助訓練

仲間ができたことは何よりも財産になった。」等、学生相互の交流から訓練全般において有益であったとの意見が数多く寄せられました。

今回の救助科第82期では、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下、制約の多い生活様式の中で

体得した知識や技術を下に、各所属においてさらに研鑽を重ね、指揮者としての責務を果たすべく個々の力を発揮するとともに、訓練を通じて汗を流した同期の学生との絆を活かし、それぞれの地域で住民の生命・身体・財産を守る活躍を期待しています。

『～感謝・尊敬・謙虚～ 救助科第82期』

## 危機管理・防災教育科 自主防災組織育成コースにおける教育訓練

消防大学校では、都道府県や市町村、消防本部等における自主防災組織の指導・育成担当者を対象として、その業務に必要な高度な知識及び能力を習得させることを目的に、「危機管理・防災教育科 自主防災組織育成コース」を設けています。

本コースは、消防大学校の学科・実務講習の中でも、都道府県、市町村の行政職員と消防職員とが共に学び、寮生活を送る数少ないコースの一つです。

令和3年度の自主防災組織育成コース（第17回）においては、学生19名が入校し、5日間（令和3年5月24日～5月31日）の集合教育を終え、全員が無事修了しました。

研修では、消防庁幹部による「地方防災行政の現状と課題」に関する講義をはじめ、専門家による「大規模自然災害」に関する講義、女性や子供の視点での「市民防災活動」に関する講義などを聴講したほか、災害図上訓練（DIG）や避難所運営訓練（HUG）、クロスロード（防災カードゲーム）の演習を行いました。



消防庁消防大学校 瀧本浩一客員教授による講義

また、課題研究では、学生が日頃職場で抱えている課題や問題点などについて、班ごとに研究課題を決め、限られた時間の中で討議を行いました。行政職



図上訓練手法の習得訓練

員と消防職員の様々な視点で活発な意見交換がなされ、問題解決の手がかりが得られるとともに、各関係機関との連携の重要性について再認識することができました。



災害時要配慮者対策の実技

研修を終えた学生からは、「住民対象への指導育成に関してのヒントをたくさん得られた。」「通常であれば、こちらから足を運ばないと受講できない講師の方々の有益な講義を短期間に集中して聴講できた。」「普段出会うことのない他自治体の職員や消防職員と様々な意見交換ができ、講義外でも交流することができ、有意義な研修だった。」などの感想が寄せられました。



課題研究発表の様子

今後は、自主防災組織を指導・育成していく上で、消防大学校で得た知識、技術を十分に活用し、それぞれの地域で活躍されることが期待されます。

### 問い合わせ先

消防大学校教務部  
TEL: 0422-46-1712